

環境報告書

2012



CONTENTS

- 環境報告書発行にあたり
- 環境への取り組み
- 環境マネジメント体制
- 中長期目標
- 2011年度 目標と実績
- 省エネ施策事例
- 夏季電力需給への対応
- 地域社会貢献活動



環境報告書発行にあたり

ヤチヨは1953年に八千代塗装株式会社として創業しました。その名の通り塗装業を生業としていたこともあり、創業当初より工場の稼働にあたっては地域社会への環境に配慮した活動を積極的に行ってまいりました。その後、自動車産業の拡大とともに、業容も拡がり、その時代ごとの環境課題に積極的に取り組んでまいりました。代表的な例として、1995年頃アメリカを中心とした環境規制が厳しさを増す中、樹脂製燃料タンクの後発組であったヤチヨは、燃料蒸散ガスの透過量抑制とリサイクル材の使用量を高めた4種6層多層樹脂製燃料タンクの量産化を国内で初めて実現し、今日に至っております。

そして2010年には、今後のヤチヨの目指す姿を「社会から存在を認められ、存在を期待される企業を目指す」と決めました。また2020年ビジョンとして「卓越した技術と特長ある製品で真のワールドワイドプレイヤーになる」と掲げ、企業活動を展開しております。私たちがこのビジョンを達成し、社会から存在を認められるためには、地球規模での環境への取り組みが不可欠であると認識しています。

今回、日本国内における環境への取り組みと中長期目標をまとめた「2012環境報告書」を初めて発行いたしました。海外においても各現地法人で目標を定め環境への取り組みを積極的に行っておりますが、今後はさらにグローバル企業としてヤチヨグループ全体の環境負荷低減目標を定め、従業員一人ひとりが環境への高い意識を持った企業活動を積極的に展開してまいります。

2012年8月

代表取締役社長

辻井 元

環境への取り組み

ヤチヨは、下記の環境基本方針・行動指針に基づき、さらに各事業所において独自の方針を定め、環境保全活動を推進しています。

ヤチヨ環境基本方針

地球環境を保全する社会の責任ある一員として、わたしたちは、全ての企業活動を通じて環境の保全に積極的に行動し、その向上に努めます。

行動指針

- (1) 事業活動・製品及びサービスにおいて、地球環境の保全に配慮して行動し、継続的改善及び汚染の防止に努めます。
- (2) 企業活動全域で、資源・エネルギーの節約とリサイクルの促進に努めます。
- (3) 事業活動の各段階で発生する廃棄物・汚染物質の削減と適切な処理に努めます。
- (4) 地域の環境改善活動に積極的に参加し、社会から高い信頼を得られるように努めます。

1998年6月25日制定

1998年7月13日改訂



中長期目標

ヤチヨは、環境負荷低減に対し中長期での目標を定め、各事業所毎に施策展開を図っています。

【CO₂排出量】

	2011年度	2013年度 (中期)	2020年目標 (長期)
総排出量	42.5千トン (1990年度比13%減)	41.5千トン (1990年度比15%減)	34.0千トン (1990年度比30%減)
排出原単位	(2010年度を基準に年1%ずつ削減)		

【VOC排出量】

	2011年度	2013年度 (中期)	2020年目標 (長期)
排出原単位	(2010年度を基準に年1%ずつ削減)		

【水資源使用量】

	2011年度	2013年度 (中期)	2020年目標 (長期)
使用量原単位	(2010年度を基準に年1%ずつ削減)		

【廃棄物量】

	2011年度	2013年度 (中期)	2020年目標 (長期)
廃棄量原単位	(2010年度を基準に年1%ずつ削減)		

2011年度実績および2012年度目標

●地球温暖化の防止 CO₂排出量

	2011年度		評価	2012年度
	目標	実績		目標
CO ₂ 排出量 (千トン)	42.5	41.7	○	42.0
完成車 (千トン)	22.5	22.2	○	22.3
部品 (千トン)	20.0	19.5	○	19.7
CO ₂ 排出原単位 (トン/百万円)	0.205	0.234	×	0.203

●その他 環境負荷低減

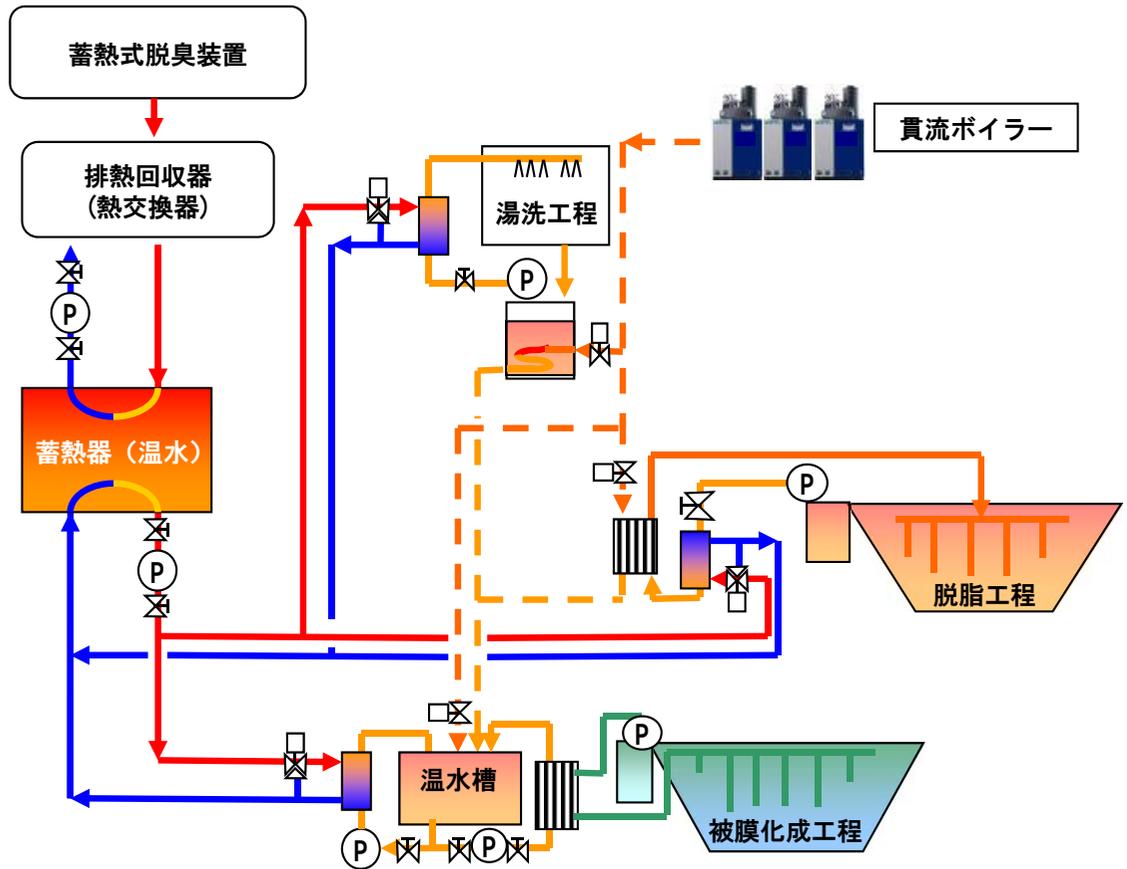
	2011年度		評価	2012年度
	目標	実績		目標
VOC排出原単位	2010年度比 1%減	5.7%増	×	2010年度比 2%減
水資源使用量原単位	2010年度比 1%減	1.2%減	○	2010年度比 2%減
廃棄物量原単位	2010年度比 1%減	3.7%減	○	2010年度比 2%減

※東日本大震災およびタイで発生した洪水影響による生産量減少により、CO₂排出原単位およびVOC排出原単位目標は未達成となりました。



省エネ施策事例

四日市製作所では、塗装工程における乾燥炉の排気脱臭装置の排熱を、塗装工程前処理液の昇温用エネルギー（蒸気の代替）に活用し、省エネ及びCO₂排出量の削減に効果をあげています。

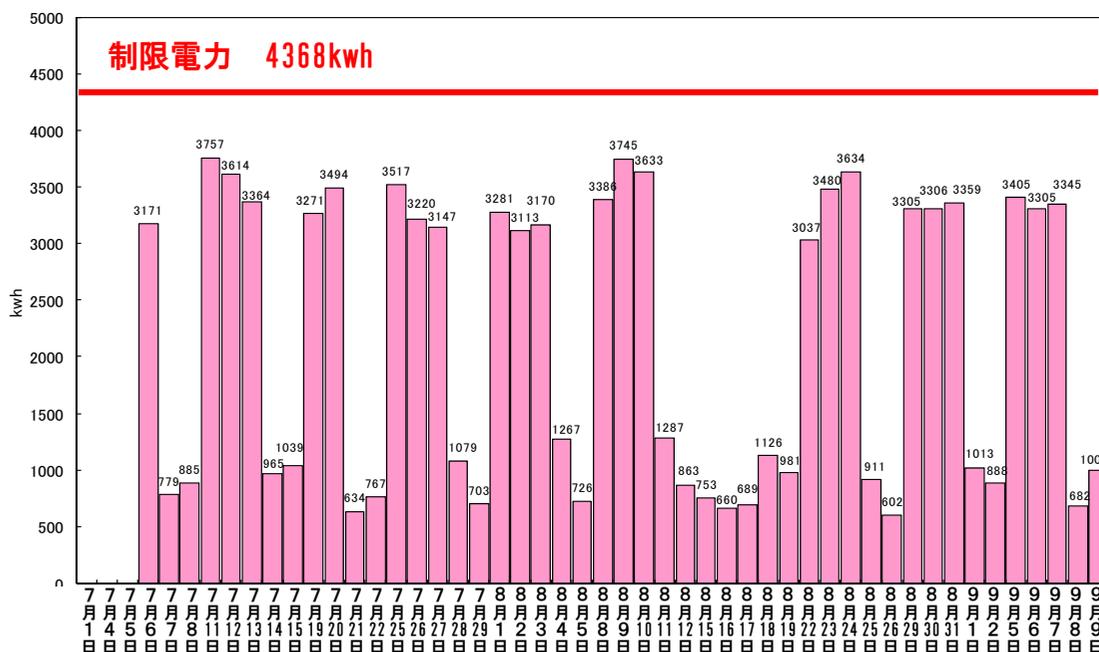


夏季電力需給への対応

ヤチヨでは、2011年度に東北電力、東京電力管内で発令された電力制限令に対して、自動車業界全体の取り組みに連動し操業を土日にシフトすることで平日のピーク電力削減に協力しました。

また、本田技研工業のグループ関連会社として、電力抑制自主共同計画（電力共同抑制スキーム）に取り組み、電力制限令15%を上回る電力削減を行いました。

●電力制限令期間中の最大電力量



生産現場においては、樹脂成形機の交互運転を実施、研究所では、自家発電の活用を行うと同時に、極力空調を使わない、外灯の消灯、不稼動設備の主電源OFF等省エネ活動を展開してきました。



地域社会貢献活動

ヤチヨは、各事業所毎に下記の活動を通じ、地域社会との共生に努めています。

①地域自治会（まきの木台自治会）とのコミュニケーション

2011. 6. 25 四日市製作所



②事業所周辺地域クリーン作戦

2011. 10. 29 四日市製作所

2011. 11. 27 鈴鹿工場



③柏原工場においても事業所周辺のクリーン作戦、入間川のクリーン作戦を企画しましたが荒天により中止となりました。

また、狭山市環境ISO連絡会の会員として、狭山市内の会員企業様と環境保全に係る情報の交換、提供および実務的な交流を図っています。2011年度は全6回実施しました。

＜ 全社環境公害委員会 ＞

委員長・・・・・・・・・・本告 次男

（事業所環境管理責任者）

柏原工場・・・・・・・・・・茂木 一

四日市製作所・・・・・・・・加藤 三昌

栃木研究所・・・・・・・・高田 哲示

鈴鹿工場／事務局・・・倉田 周市

（推進委員）

矢島 脩一朗、山口 勝司

渡辺 忠広

本山 昭弘

高倉 伸幸





2012 Environmental Report

八千代工業株式会社

全社環境公害委員会

(問合せ先) 鈴鹿工場 施設管理ブロック

〒513-0836 三重県鈴鹿市国府町石丸7764

TEL 059-378-1151

FAX 059-378-1220

<http://www.yachiyo-ind.co.jp>

2012年8月発行